

令和5年度第1回滋賀県職業能力開発審議会 概要

1 日時

令和5年6月1日（木）15時から16時30分まで

2 場所

滋賀県北新館5-B会議室

3 出席委員

佐藤、山本、中野、和田孝、齋藤、菱田、西林、沼井の各委員（敬称略、出席8名）

4 事務局

労働雇用政策課参事 他2名

5 オブザーバー

県立高等技術専門校校長

（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構滋賀支部

滋賀職業能力開発促進センター所長

6 議事概要

高等技術専門校の訓練科の再編について

資料1および参考資料1～3により説明

【主な意見等】

議題 高等技術専門校の訓練科の再編について

委員

方向性はよく考えられていると思う。県北部のことも考えて、米原、草津ですみわけしながら実施していくのが大事だと思う。再編をして何年ぐらいで評価されるのかの目途をたてておくのが大事。大学では4年ごと、あるいは倍の8年周期で見直ししていくことが多い。短期で右往左往することなく、見直しのタイミングはよく考えた方がよい。新しいことをする時は広報のチャンスでもあるのでターゲットを明確にしながら大胆に発信してほしい。

委員

求職者と企業の欲する人材の乖離があり、ギャップをどう埋めていくかが重要。技術的な面から考えると新しい機械を導入するだけでなく、古い機械を使えることも将来的に非常に役に立つ。溶接をできる技能は非常に貴重であり、色々な企業から引く手数多な人材である。求職者はそういった状況を知らないなので、どう広報していくかが重要である。

委員

建築士2級の資格や電気関係の資格は非常に魅力的なので、資格が得られるようなコースを実施してほしい。

委員

資格は人を引き付ける要素の一つでもある。

事務局

資格も魅力の一つであると考えている。

委員

電気の分野に関して就職先が非常に広い。電気関係の企業も人手不足であるため、もっと人を集めてほしい。職業や訓練分野がより魅力的に見えるようにPRの仕方も重要である。

委員

見せ方がまず問われる。今の学生は資格が好きである。資格を取った後の未来を示せるように広報していくべき。舞鶴高専等の高専の人気は高いので、将来ものづくりに携わりたい方は一定数いる。ものづくりに対するニーズがないわけではないので、どこに行けば良いのか悩んでいる方は多いと思う。高等技術専門校も選択肢の一つとして魅力をわかりやすく発信していく。しっかり伝わるようにPDCAをしっかりと回していくべきである。

委員

経済学部や経営学部等のものづくりとは少し離れた学部を卒業されて、別の企業に入ったがものづくりに興味が出てきた場合、そういった方を受け入れて道筋を示すことはできるのか。

事務局

離職者の方に訓練を行い、企業に繋げることが専門校の本分である。

委員

今は大学でも工学部の学生は少なく、経営学部や経済学部の学生は多い。ものづくりに興味が出てきた際に道筋を大々的に示すことができれば、入校者は増えるのではないかと思う。企業側からすれば、興味や好奇心を持ってもらうことが最も大事なことであり、そこを学んできてもらえれば企業側で教えていくことができる。

事務局

人手不足の状況でもあり、出口もかなり意識をしている。求職者に対して入校してみたいというイメージを持ってもらえるように再編していきたい。

委員

ガイドの名称の変更も含めて、求職者側とのイメージの乖離を少しでも埋めていけるような施策を考えてみてはどうか。

委員

ガイドブックに関して、テクノカレッジ利用者の声が記載されているが字が多すぎてかつ文字が小さいので誰も読まないと思う。こういった声は最初のページにあるべきであり、修了者の顔写真や職場の風景も入れて大々的に書く方が効果的だと思う。来たら楽しいと思わせる、将来がイメージできる広報誌にすべきである。

委員

大学の広報誌のようにガイドブックの作成に業者に入ってもらうことも必要なのではないか。委託等の手法も取り入れていくべきではないか。

委員

就活のセミナー等でも労働局等が主催で行うよりも民間企業主催のイベントの方が人数を集めている。

委員

訓練生の口から楽しかったと言ってもらえるようにしたら良い。

委員

実際の内容が反映されているもので、利用者の声を届けることが大事である。

委員

訓練生の言葉を掲載することが重要である。

事務局

広報活動も大事であると認識しているので、参考にさせていただきたい。

委員

再編の内容に関しては問題ないと感じている。今までの審議会の内容を踏まえて再編案が考えられている。

委員

ものづくりと言っても幅が非常に広い。離転職者にスポットを当てた議論が必要。大学を卒業してからものづくりに関わりたいと思っても職業訓練校に行くイメージがない人が多いのではないかとターゲットをいかに置くかが難しい。

事務局

今回の再編のメインターゲットは離転職者である。新規学卒者対象訓練科は、自動車整備科とメカトロニクス科があり、入校率・就職率ともに一定数は維持できているため、再編の対象としては考えていない。再編に関しては、離職をされた方の訓練に関して視点を置いている。

委員

ものづくりの潜在的ニーズは文系学生の中にもあるので、そういった方の離転職を支える仕組みが職業訓練校であると思う。

委員

今の中小企業の人材難は致命的である。本当に人が入ってこない。工業高校の高卒生に関しても引く手数多である。やる気と興味がある人材であれば企業としては大丈夫なので人をどんどん送り出してほしい。

委員

職業訓練校に女性が多いのは良いことである。

委員

高校、大学等で挫折してしまうとフリーターになってしまう人が多いと思う。

事務局

離職をされた方はハローワークを頼られる方が多い。入校の条件としてハローワークの紹介を経ないといけないことが制度的にある。ハローワークにも初回説明会等で訓練科の宣伝はしている。

委員

フリーターをしている人に対して手に職をつけて定職に就くのが大事だということを語る場が今の若者には必要である。

委員

今の若者はネット等で調べて再就職してしまうため、ハローワークには行かない。

委員

離転職者は相談に行く相手を知らないのではないか。相談する場所も相手もわからないので、以前通っていた高校に相談する場合も多い。高校の先生に職業訓練校のことを知ってもらうことも重要である。

委員

再編の内容は非常によく考えられていて良いと思う。

委員

生産CAD科に関して、企業側と訓練生の間でイメージが食い違っていることがある。

事務局

生産CAD科は機械加工もCADもできる人を育成していくという考えのもと前回の再編においてできた訓練科である。入校を考えておられる方はCADオペレーターのイメージを持っておられた訓練科であったが、今回の再編では、CADオペレーターではなく、3Dを使いながら構造解析等のソフトを使って学びを得てもらい、造形のイメージを持ってもらえるようにしていく。

委員

レーザーやマシニングが現場に必要な技術である。設計にはベクトルや三角関数等の数学の知識が必須である。

委員

会社で実践しながら覚えていくため、CADができるだけの人材は求めていない。勘どころをしっかり教えてほしい。

委員

現場では先輩が作った機械を見て改良を重ねていく。興味や好奇心がある人であればほしい。製

造（機械組立や調整）は高卒生の方が根性もあってよくできる。入り口をつないでもらえれば企業でしっかりと教育する。

事務局

訓練を通してものづくりの入り口を覗いてもらえれば、企業につないでいけるのではないかと考えている。そのために今回の再編で興味を持ってもらえるような内容を取り入れていきたい。

委員

想いを答申の中に入れ込むようにしてほしい。

事務局

今回の提案に関しては、委員の皆様の意見と齟齬がないと判断してよいか。

委員一同

異議なし

以上